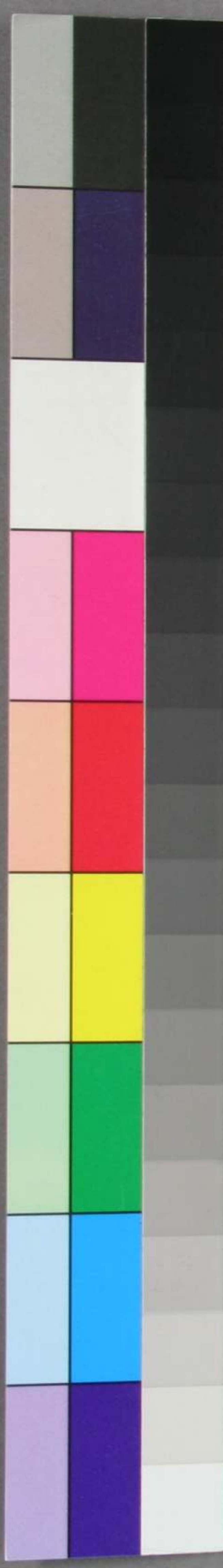


外組八十七組之内

才一

夏月香	躑躅香	初瀬香	青柳香	初春香
菖蒲香	替山路香	杜若香	替暮春香	若菜香

多
1998
36



門多9  
1338  
36



外組香八十七組之内 才一

夏月香	躑躅香	初瀨香	青柳香	初春香
菖蒲香	替山路香	杜若香	替暮春香	若菜香



夏月香

彌風香

辟麝香

青栴香

休香香

葛蒲香

香山香

林香香

香香香

香香香

水照香八十五照之内

十一



余才之香初春香

二香五種

式本

初春香

谷口

一色

右田好田

二色

二色使田

右試好くも出香十二包の内、  
一色を二包合の香一色を二包を  
合と名を定めて書付は五包  
合と名を定めて書付は五包  
合と名を定めて書付は五包

あり次は一色一色一色一色一色一色  
三色を二包合の香一色を二包を  
合と名を定めて書付は五包  
合と名を定めて書付は五包  
合と名を定めて書付は五包

すなわち金一に録金法を二にたの内地春  
二点より次が一点つ了又後の二包の内より  
一の香二点より次が一点より二包の内より  
三の香南より二点より其外皆一点つ了  
を二の金つ了と教入金一又二の二包の

内を後春出に録の金一たの教と書金  
山の湯の金法をワケをいつる白  
のしるしを代りのや春

又和春失よりたの同所左の教と書金

未しるしを代りのや春  
なす江のあよりたの教と書金

初春香子記

初春 辰 一 春 一  
初春 辰 二 春 二  
初春 辰 三 春 三

名 辰 初春 辰 一 春 二 辰 三 春 四 全

名 辰 初春 辰 一 春 二 辰 三 春 四

未 初春 辰 一 春 二 辰 三 春 四

月日 出香 名 衆

記録 子 子 子 子 子

辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰

初春香記  
 香名  
 山梨 梨之香  
 月日  
 出書  
 全

若菜香 本香  
 香名

香六種 本香  
 香名

菟豆野 二包内一包紙  
 香名

烽火野 右同以  
 香名

交野 右同以  
 香名

銅は露に付 二包内一包試

武藏野に付 右同り

若菜に付 一包徳武

右試香はく本香二包し内若菜の香  
一包陰を減し五包を  
お支内より一包を

柱中試は合名乗紙は  
徳武板残る

四包、若菜の香下く  
合し五包お支

柱中中や試香は合し  
名は乗紙に書

付中乗紙に 右始の一柱  
名乗紙に付

書付は 後柱中五包を  
試出ると



田をく若菜と書附其條の四行を何と  
 言と書付し出さるる一七片書し員輝文  
 納式その字と書付る一七録を言と  
 斗り書る一先記すを言と下後記録へ  
 写る一各条は結構左の二を林載る

	交野		
	<small>武聖</small>		
	<small>聖</small>	若菜	
	<small>聖</small>	<small>朝</small>	

左の二を  
 聖の隔南  
 二の片書遠  
 且は不成り可存記左の二を

茗菜香之記

美豆野 齋 茗菜 武 朝

江都言而人板のりり人依て  
多長方在丁行高一行も  
二行もも活あり花のりも花

名 美豆野 齋 茗菜 武 朝

全

名 文野 齋 齋 茗菜

三

名 美豆野 齋 茗菜 齋

二

月日 出香 茗菜

記録は小慎も多し又誦の五種は茗菜の  
一種に正す餘の四種は齋の場を合点  
あり有时无きものあり其時に始り  
ては齋なり齋の片書なり一紙万香

香の類

茉莉香

茉莉香の類

茉莉香の類

茉莉香の類

茉莉香の類

青柳香

香四種

青柳香

緑水香

春月香

春風の六付

右月の六付

右青柳緑水の二種試香の六付

月春風の六付の二種後青柳

緑水の六付の二種後清柳緑水

清柳緑水の六付の二種後

試合れ打身の春月春風の試香の六付

何の香の六付の二種後

香の六付の二種後

化緑の六付の二種後

青柳の香の六付の二種後

と書 緑水の香に後通れり 同中辰と書  
と書 春月の香三種二種一様をいふ  
桂と書 春風の香同南なる中辰と書  
書 春日柳一様をいふ 中辰と書 緑水  
同りいふ 浪と書 春月同りいふ

交と書 春風日けいふ 混と書 春日柳  
不短の南なる名目と下 歌と書 緑水春月  
春風の月何と書 共不短なる詩と書  
其下と書 教と書 今の人やと書 詩哥今  
と書 年一待と書 年のいと書 年

潭心月泛交枝桂 岸口風来混葉蘋

青柳の系もゆるる 春日も

本風らぬく 死にちるひは

右は待歌の意趣より 従所より 又出香

の寂を 緑水 春月 春風の香 かつ

木香の下は 待と書 但し 待 春月の香 三種 兼

潭心月泛交枝桂と書

又春風の香 三種 出ぬ

岸口風来混葉蘋と書

又春月春風 二種 出ぬ 右二句の待と

書年一又青柳をくぎり出ぬ詩を記録の  
書あり記の魚子書けりたると二句書けり  
以之より一行の書年一又出香の六句を青柳  
出ぬ本香の下より歌を書けり二行の  
可依後出ぬと歌を記録の魚子一行の

書年一其外記の面々行々考知年

記左のこまじし

春香記

風柳柳月水風柳水風水

春竹  
緑水

春月  
春風

岸口風来浪葉類

札

三十一  
三十一  
三十一  
三十一  
三十一  
三十一  
三十一  
三十一

青柳桂詩歌全  
潭心類

札名

三  
一  
二  
ニ  
三  
ウ  
一  
ニ  
ウ  
一

蕨

六五

札名

ニ  
三  
一  
ニ  
ウ  
一  
ニ  
ウ  
一

乱文  
浪混

春柳の糸のふかふか春の糸のふかふか春の糸のふかふか

月日

出香 名乗

まらくそ子准

は香紐のしらきと有試を試し紐を試の月より試  
三つ後の試をうとすはといつて高きをいふは中  
ま

香四種

浴衣を名付

山吹を名付

夏の名付



*[Faint bleed-through text from the reverse side, including characters like 香, 月, 名, 付]*

香四種 替暮春香

山吹香 名付

落花香 名付

山吹香 名付

夏 名付

二色 法同

嘗々名付 二色徳蔵

右試香三種ありて本香十一包打交  
内二色除き残り九包と煙生り試合  
名乗紙に書付申す事 記録の皇子歌  
一首書付 但各香鳥の出

遠く

一 鷲鳥二種

之等のたゞ野をこゝろ事々々

いふは花と風を吹く

同一種

花のちりもゆかりも春のま

ふたつとひのうらみも春のま

一たふすま

ふしむる花も春のま

たふすまのうらみも春のま

ふたつとひのうらみも春のま

暮春合香之記

花のちりもゆかりも春のま

ふたつとひのうらみも春のま

花のちりもゆかりも春のま

くわんものつゆきとん 事々々々  
くわんものつゆきとん 事々々々

六月廿五日 香名 乘三

江戸之 准知 香名

香名 香名 香名

香名 香名 香名

初瀬香

香名

香名 香名

香名 香名

香名 香名

香名付

香名付

此係...

初瀬香

香六種

花名付

一色

右同

三ノ名付

二色は徳は徳

四ノ名付

右二色は徳は徳

五ノ名付

右二色は徳は徳

右徳香二種はく本香十一包の月姫

花の香一包一の香二包二の香二包合て五包を

右文粒も其は二の香二包四の香二包

五の香二包合て六包はははははははははははは

ははははははははははははははははははははははは

花の香も南七包三四五の香ははははははははははは

始五種の香とす通し入るははははははははははは

たの歌の上の句と書角一後の六色不残す

えんんんん人まら下の句と書角一歌如尼

初後拾遺集後拾遺集の歌一

新後拾遺集

初後拾遺集後拾遺集の歌一

原詮以

札の表

子槻嶽

尾上鐘

三輪松村

巻向繪京

豊等寺

乃乃江

古川野邊

美那能川

布留社

立田山

札の裏

花一枚

一二三四五

各五枚了

札致す人前拾一枚つる有り

初瀬香之記

一 二花 二一  
三四四五三

名 槻嶽

一 二花 二一  
三四四五三

山花のありけり

名 尾上鐘

一 二一 花 二  
三三四四五

入おりの二

名 布苗社

二 一花 二一  
三四四五

五

香 三月 日

出香 名 乘

記録 光 准 主 命

光 准 主 命



此散是人參散也

初服香之記

此散取月...

補益

二二...

...

杜若香

香三種

...

...

...

右試紙にて出香六包を交はせしむる  
記紙とすする年一三の合信書は書りぬ  
と書る年一はあつの人と救のたしは  
書る年一其外救と書全の人ハ叶と書  
根記の面と書る年一

杜若香丸

二一三二二二

名 二一三二二二 七包内叶

月日 右出香 各来

記紙とすする年一

右四め

知微決り取是香木也文信寺札を

記法々々自年三の合信集香十素來合

下茶の正し精ばや本然教の如き也

するや二其精外精救精集香合の人の叶き事

持心の由精今精う精今精心精二精ま精ま精

躑躅香

二三三二一

香四種

二三三二一

一七包内一色試

右同め

右同め

春

一色

右家塾左の

一一一

二二二

一三二

二一一

二二一

二二二

三一一

三三二

右試

四

五

又一皓い〜四皓いの内へ〜五皓い  
 しく再いサ文一皓い了次身と桂山年す  
 々試と合たの名目と々名来ぬ書什也  
 各一二三の内りつと加るまき人の園と  
 徳る年々名目たの〜

一二 常盤山 一二 小倉山

一三 八位の園 二一 二神山

二二 曙右山 二三 行來の園

三一 般若山 三二 雙又の園

三三 八日園 四二 三の内君の園

各重いつと下と上と  
 かつまの結りし上下の  
 通ぬよ、た命

香二柱より名目一つは徳年又本香よ  
名目多し出た江の事な歌と一頁徳年  
又五結いの内国の名目多し出た出香の下  
よたの歌を書きし

咲すの山のつりの春の色を  
いそぬのまはよりけりてくる部

松の下のまはり夕附日  
はまや国をよ咲つて部

記録上は二柱より南へ二直一柱高  
の二直より大右の歌して撰りて記録  
寺の内の名目半は傍よ香の出り片書  
りまをり 松江の四よりうま

躑躅香之記

常盤山

二神山

三島

小倉山

双国

名 二神山 八国 磐手山 小倉山 三島

名 常盤山 二神山 恩国 空山 双国 二五 全

候すくさくわーしは春の色と  
さくらの花よりさくさく

月日 路香 之香 各集

記録 之 准 之

香五種

香五種

香五種

香五種

香五種

香五種

香五種

香五種

香五種

香五種

香五種

香五種



今一冊の書付 一色徳成

書付た書付 右回り

右三の合試始りて 右各土包打交り

右各土包の合試の内にて 何書月

出りて半とす夫を 右各書付

出りて外四行を 右各書付

一色不残を 下記録の先記録

点とけり 右各書付 今も

出りて半とす夫を 外と行

出りて半とす夫を 右各書付

又時々一番と云ふことありて  
中後行や今と書二番と云ふ  
山路今と書河番と云ふ今  
一と云ふ書五番と云ふ今  
今と云ふ書三番と云ふ今

書今と云ふ今と云ふ今と云ふ

今と云ふ今と云ふ今と云ふ  
今と云ふ今と云ふ今と云ふ

今と云ふ今と云ふ今と云ふ

春日山胡杏

替日山路香記

今一巻の山路香記の行かす  
まをりた

名五

名三

時々の香に  
まをりた

月日

土香名乗

まをりた  
又三の香に  
まをりた

智山路合記

入世の事... 又... 香...

夏月香...

香四種...

一と首...

二と仲...

三と晚...

四と月とて 三と徳とて

右試香三種ありて 出香首復仲復晚復  
の九包とて文下三包つと上句 中句 下句  
と三夜に分て 右三夜の内一月の香三包也  
文下一包つ加へ四包とて 左

三夜試合名も試日書付也 札もも  
時をよとて 月と香の名目あり  
一夜の月斗あり二夜三夜の月名あり 中の中夜は三月也  
同一夜二夜あり 終りあり  
同一夜三夜あり 一夜あり  
不説也

同三辰斗の満りたる 残月

同二辰斗の満りたる 雲向月

同一辰三辰の満りたる 水上月

同三辰もの満りたる 有明

同三辰もの満りたる 梅雨

同全の入りたる 夏月

同全の入りたる 晦日

又一辰の入りたる 月あり

首夏の日三辰の満りたる 卯花

仲夏の日三辰の満りたる 時

晚夏の香 日めく

薫風

右ニ示す如しの月の名目の信と書しぬ

不面口付空ス今も金一ノ復れ

書付伝ふぬ 高紀録の面々 順えあ

左の

金

夏月香之記

首夏 仲夏 晚夏

籠月晚 晚首月 月首仲

名 仲晚月晚 晚首月 月首仲 夏夏

名 仲月晚晚 仲首月仲 月晚首首 残 四

月日 出香 名集

記録是下准き事  
土香  
香露

古きかゆい  
麻屋  
徳吉  
香露

香露  
用  
用  
用

香露  
用  
用  
用

香露  
用  
用  
用

葛蒲香  
香露

香五種  
香露

香露  
香露

香露  
香露

香露  
香露



記法も四つあり 二色は内一色試

五つあり 二色は内一色試

右試法より出番五包 右文様出番

外四種のまじり捨てる 四の番をとりまじり

外番の一二三と 二つまじり 四の番

日ハ平ハ石メを傍と書るは赤の来

六月の池のまじりの水

何と何のまじり

の歌のふきり香格上の一二三の如く右乃

歌の五句をまじりしる記法

五月十日

菖蒲香之記

菖蒲香の記  
五月十日  
...

名一 二 三 四 五

名一 二 三 四 五

五月十日 出 名 乘

記 一 二 三 四 五

